

団体名・グループ名

堂々川ホタル同好会 小学生の部

審査委員の評価のポイント

堂々川砂どめを利用したピオトープ作り、ほたる鑑賞会における光害（車のライト）防止活動など、自主的な活動が地域に溶け込んでおり、活かされている。活動のバランスがとれており、成果を上げている点が高く評価されました。

活動の場所

広島県福山市神辺町 堂々川
(全長5kmの川の約1.5kmの間)

活動したこどもの人数

6人

活動したこどもの学年

小学校1～6年生

活動継続年数

2年6ヶ月

主な受賞歴

なし

活動グループ（学校・団体）の紹介、活動頻度

- 平成16年5月 下御領ホタル同好会発足
- 平成16年11月 子供5人と保護者が入会する
- 平成17年 子供たちはホタルや砂留の勉強会や堂々川で生物の観察を行った
- 平成18年4月 堂々川ホタル同好会を36人で結成
- 平成18年5月 小学生の部を6名で新設する

現在小学生の部を含めて81名になる。

川の清掃活動および砂留の整備とピオトープ作り8回、沿道へ花の植栽1回、子供の部のみの勉強会6回行っている。

活動の概要（活動の経緯も含めてご記入下さい）

ホタルが住む川なのに不法投棄が多いので捨てさせないように綺麗にして環境を守る為の清掃活動や草刈を準定期的に行う。堂々川砂留が日本一の砂留として認められ登録自然文化財になるのに草で覆われて砂留が見えない。それを見えるように草刈等を行う。活動上流に四季の森、堂々公園が整備されているがそこから下は草が伸び放題、こんな場所でホタルを飛ばしてみんなに癒しを持ってもらうために活動をしている大人の人たちにお茶などを配ったり、話しかけ楽しく働いてもらうことをした。

不法投棄を少しでもなくす為にウッドフェスティバルの催しで展示発表会や「しおり」をつくり「ゴミを捨てないでネ」のPR行った。

ホタルを沢山飛ばす為に福山市協働のまちづくり課から助成をしてもらい「ピオトープ作り」をしたがその際お手伝いをした。3月には沿道を花で飾る為に水仙等約400本を植えたがそのお手伝いをした。

団体・グループ名

堂々川 ホタル 同好会 小学生部
(ラブリバー認定団体)

活動の場所 (様子や環境など)

どうとうがわ すほども

広島県福山市神辺町の堂々川 砂留 周辺

(この川には8つの砂留が江戸時代元禄年以降に作られ、昨年9月国の登録自然文化財となっています。)

タイトル

みんなが愛する! ホタルと自然

活動を始めたきっかけ (興味を持ったことなど)

平成16年の11月に神辺町の主催した堂々川周辺から八丈岩までのウォーキングラリーに参加したときに、「堂々川ほたる同好会」があるということを知りました。

当時は森林組合や民生委員の大人の方が少人数でほたるを守るために、また川をきれいにするために清掃やカワニナの放流を行っておられました。そのことを聞いて、ほたるをたくさん飛ばすために、自分たちの手で何かできることはないかと興味を持ちました。実際に川をきれいにしたり、環境を守るという活動に参加したかったので小学生6人で入会しました。また私たちのふるさとである、神辺町に流れている堂々川は、歴史的にも貴重な砂留めがあり堂々公園や公園の中を流れる川も美しく小さいころからよく遊んできました。そんな川をずっとずっと守っていきたくらいきれいな水が流れる川で、たくさんホタルを飛ばしたり、さわがにヤトシボなど水辺の生物がいつまでも住める環境を守っていきたくらい強い思いがあったからです。

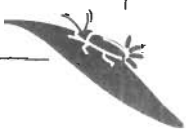
活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

どう どうがわ

堂々川ホタル同好会小学生部メンバー紹介



たかまつ	高松	さほ	咲歩	ゆだ	湯田	小六年	後列右
み	三浦	ゆり	優里子	〃	〃	五年	〃 中
たかまつ	高松	かほ	香歩	〃	〃	四年	〃 左
み	三町	ゆうた	侑太	〃	〃	三年	前列中
み	三浦	なひ	直也	〃	〃	二年	〃 右
み	三町	あやの	彩乃	〃	〃	一年	〃 左



活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

堂々川の清掃

～定期的に川の清掃をしています～

● 4月～7月

大きなナイロン袋と火ばしを持ち、軍手をはめて堂々川の下流から上流に向かて、ゴミを拾いました。一番多かったのは、タバコのすいがらや、お弁当やおかしの袋、ペットボトルなどです。びっくりしたのは、いすやタイヤ、鳥かごなどが捨ててあったことです。川は、ゴミ箱ではありません。

↓ 雨降りでも、かっぱをきてゴミ拾い



6月のホタルかんしょう会にむけて、大人の方は、草刈り機で背の高い、セイワカアワダチソウなどを刈ってくださいました。背の高い草があると、ホタルがよく見えないし、草むらになっていると、しげみにゴミが捨てられるので、草を刈ってきれいにしてくださいました。



● 10月～11月



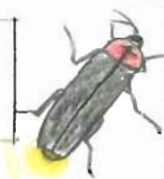
ピオーフを作るため、また川の清掃やゴミ拾いをしました。まだまだ、たくさんのゴミが捨てられています。45リットルのゴミ袋に、10月は、6袋分、11月は、7袋分ものゴミがありました。

自然の大切さや、ホタルのことについて、みんなにも、もっと知ってほしいと思いました。



活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

ホタルかん賞会



5月終わりごろから、6月終わりごろまでホタルが飛ぶのが見られました。20時ごろから、草むらの中で、ホトッホトッ光り出したかと思っていたら、急に、たくさん光りがまい始めました。



6月11日

同好会のみなさんと一緒に、ホタルのかん賞をしました。19時、国分寺の駐車場に集合し、ゴミ拾いをしながら、堂々公園まで歩いて行きました。ホタルは、人工の光をきらうため、車は、堂々公園駐車場か、それより上に止めてもらうように、大人の人と一緒にゆうどうしました。

ホタルかん賞会で感じたこと

川がきれいになって、ホタルがたくさん飛ぶようになったら、ホタルの季節には夜、かん賞をする人でにぎやかになります。ホタルを見たい気持ちは、みんな同じだと思っけど、車で来たり、あみで、ホタルをとろうとしたり、ゴミを捨てたまま帰ったりということがあって、残念でした。



ホタルは、なぜここに住めるのか、それは、川がきれいだから住めるということを見に来られる人にも伝えたいです。そして、堂々川のホタルを守るために、かんはらっていきまいたいです。



カワニナについて

活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

カワニナは、きれいな川で、流れがゆるやかなところにはかきすめません。なので、ゴミをすてたりするとカワニナが、すめないから、ホタルもすめません。みんなが、ゴミをすてなければ、たくさんのカワニナやホタルがすめます。ゲンジボタルは、カワニナしか食べません。ハイケボタルは、まきがいやクニシなど食べます。



ゲンジボタルのえさ(カワニナ)

ハイケボタルのえさ(キノアライ貝)

ゲンジボタルについて

オスは、1.5cmで、メスは2.0cmで、メスのほうが大きいです。水辺を飛んでいるのは、ほとんどオスです。オスは、飛びながら光ります。



ビオトープの観察

これは、さわがにです。見れて、とてもうれしいです。

ビオトープに、赤とんぼが、まてくれました。



活動の内容や調べたこと、写真やイラスト **ウッドフェスティバルでの活動1**

神辺のイベント、ウッドフェスティバルが堂々公園でありました。堂々ホタル同好会もひとつのテントを立てることになりました。そこでただ参加するだけでなく、小学生部として何か出来ることはないかと考え、会長さん、世話役さんに提案してみました。

世話役さんは思うようにやっていいとってくださいました。まかされたことは不安でしたが、みんな力を合わせて精いっぱいがんばることが出来たと思います。



← 川やほたるの説明会には、おじさん、おばさんをはじめ、小さい子やお母さん、お父さん、そして高校生などの人がしんけんに話を聞いて下さいました。

〔目的〕

- ・川の清そうなどの活動や、ほたるのことをもっとみんなに知ってもらう。
- ・川の大切さをみんなに伝える。



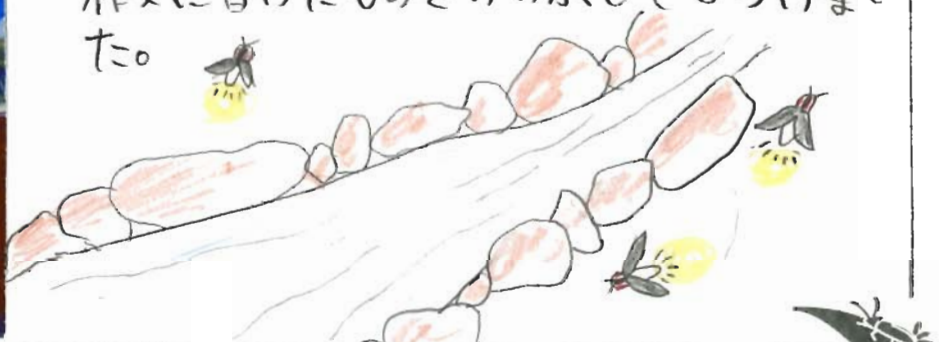
〔方法〕

- ① ほたるのしおりを作りみんなに配る。しおりは写真や自分たちで書いたイラストやメッセージを入れてラミネートしたものにリボンをつけました。説明を聞きに来てくれた人にしおりを配りました。

私達がつくったしおりです。



- ② ほたるのことについて二回説明する。ほたるの写真や清そうの写真などをパネルにするのは大人の方がして下さいだったので、その説明しました。パネルの中には、思っていることを作文に書いたものをけい示してもらいました。



活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

ウッドフェスティバルでの活動2

ほたるの一生

- ①6月ごろ岸辺の温ったコケなどに1匹のメスが500個くらいの卵を産む。
- ②卵は8月はじめまでに孵化して幼虫となって川にはいる。川には約8ヶ月いて、えさはカワニナを食べる。8ヶ月で20~25匹くらいのカワニナを食べる。カワニナの食べ方は消化液を注入して肉を溶かして食べる。
- ③幼虫は夜行性で夜動き回り。隠れは石の下や草の根の辺りにいる。3月終わりごろ~4月の初降りや湿気の多い夜岸へ上る。
- ④土や砂の中に入りさなぎになり2ヶ月過ごす。
- ⑤5月終わりごろから、まずオスが羽化する。その1週間後くらい後にメスが羽化する。羽化してから数日たって光る。6月はじめから6月終わりごろまでほたるが光っているのが見える。
- ⑥成虫になってからの命は7~10日。
★ほたるはヶ月別の空において、2ヶ月間土の中において、成虫になって1週間くらいで、命が終わる。

- ①6月ごろ岸辺の温ったコケなどに1匹のメスが500個くらいの卵を産みます。
- ②卵は8月のはじめまでに、溶かして、幼虫となり、川にはいる。川には約8ヶ月いて、カワニナを食べる。8ヶ月で20~25匹くらいのカワニナを食べる。カワニナは、消化液を注入して肉を溶かして、食べている。
- ③カワニナは夜行性で夜動き回り、隠れは石の下や草の根の辺りにいる。3月の終わりごろ~4月の初降りや湿気の多い夜、岸へ上ります。
- ④土や砂の中に入りさなぎになり2ヶ月過ごす。
- ⑤5月の終わりごろからまずオスが羽化する。その1週間後くらいにメスが羽化します。羽化してから数日たって光ります。6月はじめから6月終わりごろまで、ほたるが光っているのが見えます。
- ⑥成虫になってからの命は7~10日。
★ほたるはヶ月別の空において、2ヶ月間土の中において、成虫になって1週間くらいで、命が終わる。

ウッドフェスティバルで発表したときにつかた原こうです。「ほたるの一生」の他にも「ほたるの種類」「げん氏ほたると平家ほたるのちがひ」「ほたるの住んでいるところ」や自分の思いや感さうなどを発表、説明しました。



(感想)

この説明会をえて、川を清らういたりすることも大切だけど、たくさんの人に川やホタルのことを知ってもらおうということも大切だということをおぼえて思いました。老若男女とわずたくさんの人に堂々川やホタルのことを広められたのでよかったです。



たくさんの方が説明を聞きに来てくれました。おたしたちが発表しているところですよ。緊張しながらがんばって発表しました。





写真やイラスト

ビオトープづくり

〈計画〉

堂々川の4番砂どめを整備し、ビオトープを作る。
 三角洲の砂が流れないように石を置き、網を張り、固定する。水が洗ったツルアミの根にホタルの幼虫が住めるようにする。また、ショウブや水草を植えて、小動物や魚が住めるようにする。

11月12日

大人の方が草刈機10台で、草を刈った。私たちは、刈った草を集めたり、川のゴミ拾いをした。ビオトープは、大人の方がスコップでほって、水路をつくった。くいを打ちこんで、網を張った。



私たちは、水路に入れる小石などを運び、水路の中に入れた。大原池から水が流れこんで、水路に、ゆっくりとした流れができました。
 流れてくる水は、つめたかった。



↑堂々川ホタル同好会 小学生部(ビオトープの前で)

12月28日のビオトープ。水がたくさん



流れこんでいた。



活動の内容や調べたこと、写真やイラスト

ビオトープのかんさつ

12月25日



※12月4日
ビオトープの水温
9.8℃(11.45)

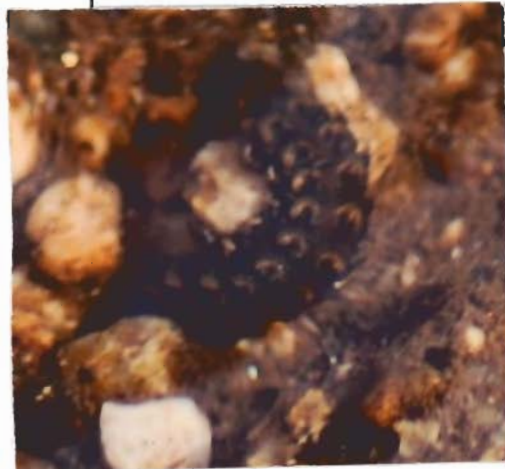
← カワナ
発見



← 流れが
ゆるやか
なきれいな
水

①(ほうりゅう)したカワナは、ビオトープの中で生きていました。

②カワナのえさになるものが生えてきていました。ビオトープにおちてきたかれはも、カワナのえさになります。



③ ホタルの幼虫が
ビオトープから、10m上流の石の下にいました。

→
ホタルの幼虫をつかまえて石の上においたら、丸くなりました。3分後には動きだしました。ホタルは、すむかみきうがわるむと、丸くなって、水に身をまかせて流れて、下流の良いところで待っているそうです。



④ ツルアシが川までのびていてその根を水がまらうと、ホタルのせうこうのすみかとなるそうです。

⑤ 同女子会の大人の人が(ほうりゅう)したカワナがたくさんいました。きれいな水なのでカワナがすめそうです。



活動で工夫したこと、困ったこと

- ホタルがとんでいる川の前に、ロープがはってあって、その中に入るとはいけないうのにロープの中に入って、ホタルを見つける
- と、手でバシバシホタルをむりやりつかまえようとしていて、とても困りました。注意をしても言うことを聞いてくれませんでした。なので、ホタルや川を大切にしてほしいです。
- ゴミ拾いをしていると、大まいゴミ(とたん、赤ちゃんのおるバットや、消火器、ソファー)から、小さいゴミ(トイ、ペットボトル、アキカン)があちらこちらにあちあちしていました。ゴミ拾いをするたびに、このようなものがあちあちしています。
- 活動でただゴミを拾ったり、川をきれいにするだけでなく、みんなに川にゴミを捨てないように、よびかけています。

これからやりたいこと

- もと、ビオトープを作って、生き物をもっとふやしたいです。どうどう川に、いろいろな草花の種類がふえるように、がんばりたいです。
- ホタルがすむには、ホヤ草もないといけないうので、ホヤ草のなえをたくさん植えたいです。
- また、ゴミをホイすてる人がいるので、ゴミをすてる人がいなくなるように、よびかけをしたいです。
- もと、ゴミをへらして、ホタルの数をふやしたいです。



気づいたこと、感じたことやおもしろかったこと
環境大臣やみんなに伝えたいこと

今、ごみをすてる人が非常に多いです。この人たちは自然のことをまったく考えていません。ごみのポイ捨てということが悪いことだと気付いてほしいです。こんな人たちがいなくなるように、一人一人がポイ捨てはいけないと心がけてほしいです。

みんな(ホタル同好会のおじさんなど)が協力してビオトープを作ったりしていると、山の方では、鳥のなき声が聞こえたり、草のにおいなど、神辺の自然はやっぱりいいなと感じました。

みんなで川の中にながぐつをはいて草がたくさんはえていたり、木がたおれたりしている中を、あちらこちらに落ちている、ペットボトルやあきかんなどを拾って、川を清そうしていると、ぼうけんみたいで楽しかったし川がきれいになったのでうれしかったです。

わたしたちがきれいにした川にたくさんのホタルがとんでいたの、わたしたちががんばったから、とんでいるんだなと思うととてもうれしいです。

子どもだけではできないような活動を地いきの大人の方が中心となって一しょにすることができて本当によかったです。おじさんやおじさんたちが知っていることを教えてください。とてもべん強になりました。川をきれいにするには、水をきれいにするだけでなく草をかき取っていつも川のまわりをきれいにすることも大切だし、いろんな議会などに意見をもらって、活動を認めてもらうことと県や市に協働体制を求めるといったことも大切だということがわかりました。

この川の清そうを通じて感じたことはすべて自分たちの宝になるんだらうと思っています。このきれいな川やふるさとをこれからも守っていくようにみんなとがんばっていきたいと思います。

